

(つくだに・煮豆・そうざい)

全調食協報

令和7年4月1日発行

No.180号

発行所

全国調理食品工業協同組合

〒110-0015
東京都台東区東上野3-1-10
井門東上野ビル3F
TEL 03-6807-7576
FAX 03-3843-3611

<http://www.zenchoshoku.or.jp/info/>



目次

- | | | | |
|------------------------|---|----------------------------|----|
| ○令和6年度 第1回理事会開催 | 2 | ○全調食ブロック活動報告 | 10 |
| ○「第8回若手後継者育成研修会(神戸)」開催 | 4 | ○「スーパーマーケット・トレードショー2024」開催 | 11 |
| ○「佃煮・煮豆」キャンペーン開催 | 7 | | |

令和6年度 第1回理事会開催

令和6年度第1回理事会が下記により、宮城県仙台市において開催されました。

1. 日 時 令和7年2月6日(木) 午後3時～
2. 場 所 仙台市「ホテルメトロポリタン仙台」 3階「曙」
3. 出 席 理事・監事37名 総勢43名
4. 岩田理事長挨拶（要旨）

開会の挨拶で、岩田理事長は「世の中は急速に変わってきている。原料高や原料不足が続く、人件費も上昇している中、今までのビジネスではなく新しいビジネスモデルを構築し、高付加価値商品へと切り替えていくことも必要な時代となってきた。今後はもっと大きな変化があり、若い経営者が中心となっていくべきで、業界も大きく変換することができると思う。組合としても引き続き若手を育成し、業界の発展のために頑張っていきたい」と挨拶した。

5. 議 案

- (1) 令和6年度収支見込及び令和7年度収支予算案について
- (2) 第70回通常総会に提出のその他の議案について
 - ①借入金最高限度額 ②賦課金の徴収 ③新規加入組合員の加入金
 - ④常勤理事の報酬額
- (3) 任期満了に伴う役員の改選について
- (4) 令和7年度若手後継者育成研修会について
- (5) 令和7年度新事業について
- (6) 組合創立70周年記念行事における功労者表彰について

6. 報告事項

- (1) 令和6年度全調食団体P/L保険の募集結果について
- (2) 今後の通常総会・理事会・若手後継者研修会開催スケジュールについて（案）
 - 令和6年度若手後継者育成研修会について
 - 日 程：令和7年2月27日（木）
 - 総会会場：(株)マルヤナギ小倉屋、加東市の蒸し豆、煮豆の新工場
視察、講演会、情報交換会
 - 第70回通常総会の概要について
 - 日 程：令和7年5月22日（木）
 - 総会会場：名古屋市「名古屋マリオットアソシアホテル」
 - 令和7年度第1回理事会・新年会について（案）
 - 日 程：令和8年2月5日（木）
 - 会 場：静岡市「ホテルアソシア静岡」（案）

(3) 令和7年度「クリアファイル」のリニューアルについて

7. 情報交換会

理事会終了後には情報交換会が**佐々副理事長**の挨拶・乾杯で開宴した。出席者の方は和やかな中にも積極的な情報交換を行い、充実した内容になったものと感じられました。その後、東日本ブロック会の**菊池ブロック会長**の中締めで情報交換会をお開きにした。



岩田理事長 挨拶



理事会 会場

写真提供／#食経

第8回「若手後継者育成研修会」開催

- 日 程 : 令和7年2月27日(木)
会 場 : (株)マルヤナギ小倉屋 社(やしろ)工場(蒸し豆、煮豆の新工場)
研修内容 : 工場視察、講演会
参加者 : 若手後継者30名、報道、本部含め 計38名

第8回「若手後継者育成研修会」を、2月27日(木)に兵庫県加東市で開催した。当日は北海道から鹿児島まで全国各地から30名の若手後継者(40歳未満の若手後継者が原則対象で、第1回~第7回に参加した40歳以上も対象)が出席。工場視察後、同工場内会議室で柳本代表取締役会長の講演会が行われた。

工場視察では、2020年に新設した蒸し豆専用工場の原料選別・洗浄・計量・水漬けから調理・殺菌までの最新設備による工程を視察した。業界の中で、いち早く製造現場の省力化に取り組んできたことが伺えた。蒸し豆開発の先駆者として、様々な独自技術を持つことも明らかにされた。

工場視察後の研修会冒頭、岩田理事長が「全調食では、業界の未来を担う若手後継者にいろいろな学びや経験、出会いの場を作ってきた。本日講師の柳本会長は、全調食きっての名経営者であり、たくさんのことを学んでほしい」と挨拶した。

続いて、柳本会長がご子息の専務(健一氏)と講師席について、「マルヤナギの成長と、柳本一郎の動き、考え方、生きざま」をテーマに講演した。

大学卒業後、就職した商社や自動車トップメーカーで営業について勉強、その後現在のマルヤナギ小倉屋に入社して、担当地区の売上げを2倍近く伸ばしたことを振り返りながら、当時の動き方などを説明。卓越した営業力を原動力に、入社当時売上げ19億円だったが110億円に拡大した。新商品を作り続けることで業績を伸ばしてきたが、発売21年目の「蒸し豆」も販売が伸びたと語った。その他、京セラ創業者「稲盛和夫氏」との出会いが、経営者としての転機になったことや、会社の歴史などについて述べた。

その後場所を移して懇親会を開催。司会進行は若手後継者として参加している柳本健一氏が執り行った。後に報告があつてわかつたことであるが、懇親会の後半は参加者から、工場視察や柳本会長の講演についての質問が続出して、受け答えは専務の柳本健一氏が行つたとのことである。行き帰りの専用バスの中でも、参加者の自己紹介、講演会の質疑応答などで盛り上がり、内容の濃い有意義な若手後継者育成研修会になつたものと確信致します。



岩田理事長



柳本会長



講演会の様子



参加者で記念撮影

写真提供／(株)食経

「佃煮・煮豆」キャンペーン開催

□北海道ブロック会

第2回「子ども食堂」無償寄贈実施

「佃煮・煮豆」のキャンペーンとして、2月13日(木)の「ワーカーズコープあさひかわ」へ小松食品㈱より「伝統の技 たら醤油煮」「伝統の技 ごま昆布」400袋、山源山下食品㈱より「黒豆」「金時豆」490袋、合計890袋を寄贈した。商品はワーカーズコープから旭川市内の子ども食堂へ配布される。また当日は、山源山下食品㈱の山下専務が訪問して贈呈式を執り行った。



商品を寄贈する山下専務

□東日本ブロック会

第3回「子ども食堂」無償寄贈実施

「佃煮・煮豆」のキャンペーンとして、3月5日(水)に東京都三鷹市「NPO法人フードバンクみたか」へ、組合員19社30商品の佃煮・煮豆等2,662個(佃煮等1,661個・煮豆1,001個)を無償寄贈した。また、当日は全国豆類食品消費啓発推進協議会(岩田功会長)を通じて、全国甘納豆組合連合会(塚本裕会長)より甘納豆300個、全国フライビーズ組合連合会(吉川猛理事長)より大粒花豆400個の寄贈も行われた。

東日本ブロック会による子ども食堂への令和6年度寄贈事業は千葉県船橋市、東京都板橋区に続いて、今回で3回目となる。当日は「フードバンクみたか」の事務室において14時より贈呈式が行われ、小沼ブロック副会長より「フードバンクみたか」の寺嶋理事長へ「佃煮・煮豆」等が贈呈された。また、宣伝商材として佃煮の日クリアファイル100枚を寄贈した。

小沼ブロック副会長は挨拶で「今日は佃煮や煮豆、及び甘納豆、豆菓子を持参しました。多くの子どもさん達に行き渡りますようにお願いします」と挨拶した。

続いて、フードバンクみたかの寺嶋理事長は「提携している子ども家庭支援センター、母子生活支援施設、子ども食堂などの皆様と連絡をとって、必要個数を提供する準備をしています。また今月のフードパントリーにて配布します。たくさんさんの食品を有難く有効活用していきます」と感謝の言葉を述べた。

寄贈商品（順不同）は、金ごまわかさぎ（佐藤食品）、渦美人（塩味）・シーフードカリット（菅英佃煮本舗）、極太メンマ（ミクロ）、ピリ辛わかさぎ（小沼水産）、ピーナツみそ（鳩屋）、たらこわかめ（仁徳）、いつでもミートボール（石井食品）、かつお小判・ちりめんおかか（佃の匠やまと）、生ふりかけおかか・きくらげ佃煮（遠忠食品）、さざめ昆布（銀座新之助貝新）、金紋みそピー（日出味噌醸造元）、くるみ甘露煮（勝木食品工業）、高原豆・うぐいす豆・白花豆・富貴豆・金時豆・三色豆（佃屋食品工業）、あさりやわらか煮（高沢食品）、たらこ昆布・若さぎ佃煮（オオタニ）、羽田大谷の若炊きあさり（大谷政吉商店）、十品目野菜豆・七品目ひじき豆（菊池食品工業）、3種のとろ火炊き煮豆セット（菊田商店）、たもぎ茸と根昆布・さけ昆布巻（タカハシ食品）



贈呈式後の記念撮影



寄贈された佃煮・煮豆商品

写真提供/株食経

□東海北陸ブロック会

「南陽地区市民館3階」無償配布実施

三河佃煮工業協同組合と豊橋佃煮会は、市内3カ所の子ども食堂（南陽ニコニコ食堂、やまぐちさんちのハピネス食堂、スマイル2）に、おにぎり向け佃煮6種などを利用した「つくだ煮おにぎり弁当」900食を、南陽ニコニコ食堂様と共同で製作して提供した。



贈呈式



佃煮・お菓子配布

写真提供/㈱食料新聞社

□西日本ブロック会

「尾道市社会福祉協議会」無償配布実施

「佃煮・煮豆」のキャンペーンとして、「広島フードフェスティバル」において5社協賛の佃煮・煮豆商品660個の無償配布を実施。「尾道市社会福祉協議会」へ7社協賛の佃煮・煮豆など1,436個を2回に分けて無償提供した。また、小豆島組合員8社協賛の佃煮・煮豆商品2,030個を子ども食堂へ無償配布して子育て家庭などに配布された。

全調食ブロック活動報告

□東日本ブロック会「第46期定例研修会」開催

東日本ブロック会では、2月18日(火)、ビジョンセンター東京八重洲（東京都中央区）において、第46期定例研修会を総勢参加者32名で開催した。

菊池ブロック会長は開会挨拶で、「トランプ政権になり約1ヵ月が経つが、既にいろいろなことが起こっており、今までの常識が通用しない世界になっている。

会社経営においても、世界が混迷する中で、常に最悪の事態を想定して準備しておくことが大切だ。原料や物流費が上昇し続けており厳しい環境下ではあるが、是非皆様と協力し、積極的な組合活動を行っていききたい」と述べた。

活動報告では、今期開催の通常総会や子ども食堂支援事業などについて振り返り、今後の事業計画として、10月に米国カリフォルニアのクルミ産地において視察研修会を実施予定であることを報告した。

続いて行われた講演会では、「食品製造業向けM&A・事業承継セミナー」が行われた。講師はマクサス・コーポレートアドバイザー(株)の卯田泰基氏が行った。卯田氏は近年、後継者不在により中小企業の休廃が増加し、それに伴いM&A件数が増加していることを説明。食品業界の様々なM&A事例を紹介しながら、事業承継がうまくいく会社、いかない会社などについて解説した。卯田氏は「事業を守るには事業承継対策を早期から進める必要があり、M&Aを行う場合は仲介業者任せにはしないことが大切」と語り、セミナーを結んだ。

その後会場では情報交換会が行われ、出席者が近況報告。年末のおせち商戦や非常食マーケットなどについて、幅広い意見が交わされた。

研修会終了後は、場所を移動して懇親会を実施して各社情報交換を積極的に行って親睦を深めた。



菊池ブロック会長 挨拶



研修会会場

写真提供/㈱食料新聞社

「スーパーマーケット・トレードショー2025」開催

第59回スーパーマーケット・トレードショー2025（主催：一般社団法人全国スーパーマーケット協会）が2月12日～14日、幕張メッセ全館で開催された。

3日間の登録入場者数は77,305名となり、前回よりも増加。場内は3日間を通して多くの来場者で賑わいを見せ、アフターコロナ時代を感じさせる展示会となった。

出展者からは「本気で商品を探しているバイヤーが例年以上に多い」「新規販路先からの引合いが多く、今後の交渉が楽しみだ」「商談が決まった」といった意見や感想が多数聞かれ、国内外の観光客が多くなり商品の品揃えや、付加価値商品の発掘のため、目的意識を持って会場に足を運んだ来場者が多かった。

参加組員（順不同）、青柳食品(株)、遠忠食品(株)、(株)江戸一飯田、(株)太堀、岡田食品工業(株)、かねだい食品(株)、カモ井食品工業(株)、川原食品(株)、岐阜食品(株)、(株)合食、(株)小林つくだ煮、佐藤食品(株)、(有)タカハシ食品、タケサンフーズ(株)、(株)竹田食品、佃食品(株)、(株)釣八、(株)道水、(株)濱金商店、(株)平松食品、福利物産(株)、フジッコ(株)、(株)北洋本多フーズ、丸金食品(株)、(株)ミノカン、安田食品工業(株)、ヤマダイ食品(株)、の27社が出展、各社とも厳選した自慢の商品を出展PRしました。



会場の風景